

No.261



青森県理学療法士会ニュース

平成16年度士会長会議報告

青森県理学療法士会会長 伊藤 和夫

日 時	平成16年10月6日 13時～16時
場 所	奈良市 三井ガーデンホテル奈良
議 案	1) 平成16年度前期事業報告 2) 協議事項 (1) 介護保険について (2) 診療報酬改定について (3) 総会・代議員会で議論された今後の検討事項

報 告

今回は、交通手段の関係で25分ほど遅れての参加でした。会長の挨拶等は既に終了しており、議事に入っていました。議長は、次期全国研修会担当の愛知県士会保村会長と他の理事が行なっていました。各部局報告の質疑の中で、学術関係の大会誌、抄録集については、CD化には約300万円ほど経費がかかる、Web公開の他、検討法としては各施設一部、廃止、有料化、現状維持等である。いずれにしても会員増（予算増）、経費増の中で効率化をめざしたい、有料化の場合には参加費を安くする等、各県士会に持ち帰って検討していただきたいとのことでした。

次に、政治連盟についての意見が出されました。昨年の代議員会での会長の答弁から、政治活動をするのかどうかは問われました。「するな」とは受け取っていない、方法論？の違いか、議員連盟、超党派での活動は？などの意見が出されました（福島、高知）。協会としては別組織である（動けない）、士会単位で動く、協会と連盟は車の両輪である、学術会議を含めて三つの車輪である、連盟との関係については答えられない、など意味のよくわかりかねる意見、発言が見られました。さらには、「士会単位で提案していただきたいと言われても、協会の対応が具体的に見えない」

「協会から提示していただきたい」といった意見も出されました。会長からは、協会としてはこれまで具体的には討議したことはない、北海道士会から理事会への提案が出されたので検討に入りたい、といった答弁がなされました。しかし、協会で連盟について討議する必要はない、との意見を議長が受け入れ、質疑は打ち切られました。

また、医療保険について保険部から翌日開催予定の会議内容について簡単な説明がありました。アンケート結果の内容の紹介、ネットワーク作り、情報収集の方法、などを前提にして、診療報酬の改定への対応を行なうことが報告されました。続いて、介護保険部から、現在取り組んでいる内容について報告がありました。特に、新予防給付に関して、協会としてはPTを積極的にアピールしていく、そのための準備と調査の説明、紹介がなされました（全国医療保険および介護保険担当者会議報告を参照）。

最後に、平成17年10月28日、OT協会と合同で40周年記念行事を行なう、予算規模は1500万円、会費は2万円、東京で行われることが報告されました。以上簡単ですが、士会長会議の概要報告いたします。

平成16年度士会役員講習会

青森県理学療法士会会長 伊藤 和夫

日 時 平成16年10月9日 16時15分～17時15分

場 所 奈良市 三井ガーデンホテル奈良

講 師 西 達男

(内閣官房行政改革推進事務局、行政委託型公益法人改革推進室室長)

テ - マ 「公益法人の今後の行方」

概要報告

資料「公益法人制度改革についての検討状況報告メモ」(平成16年10月、内閣官房公益法人制度改革推進担当室)からの冒頭を紹介します。

本改革は、今後わが国社会における民間非営利部門の役割の重要性及び現行の公益法人制度における主務官庁制の弊害にかんがみ、

準則主義(登記)により簡便に設立することができる新たな非営利法人制度を創設し、非営利目的の自由な法人設立を通じて、人々の自由活発な活動を促進するとともに、

非営利法人制度の下に、新たな公益性認定の仕組みを構築することを通じて、民間非営利部門における公益活動の発展を図るものである。

さらに、簡単にわかりやすく説明しますと以下のようになります。

現行の公益法人制度は、法人の設立と公益性の判断が一体化されています。これを、法人の設立と公益性の判断を別々に切り離すというものです。『法人の設立は登記のみで設立(非営利法人)』、

『公益性の判断は非営利法人の中から一定の基準にもとづき、特定の主体が判断する』というものです。つまり、法人設立は登記のみで可能であり、事後チェックを受けるといった内容のものです。そして、税との関係では、『新たな非営利法人に対する税制上の取り扱いについては、非営利法人制度のさらなる具体化にあわせて引き続き検討する』としています。また、中間法人・NPO法人制度は、新たな非営利法人制度との法制上の関係を整理するとしています(主に中間法人が対象であり、NPO法人はおそらく現行どおりとのこと)。平成16年末までを目途にさらに基本的枠組みを具体化した上で、平成17年度末までに法制上の措置等を講ずることを目指すとしています。

説明の中で、そもそも、NPO法人、中間法人設立の際にあわせて提案する予定であったようです(付帯事項)。平成15年6月の閣議決定、公益法人制度の抜本的改革に関する基本方針には、本内容が明確に述べられています。平成18年には、施行されるものと考えられます。当士会としては、理事会討議を行ない、ブロック協議会との調整、意見交換を行なっていきたいと考えます。

全国医療保険及び介護保険担当者会議報告

青森県理学療法士会会長 伊藤 和夫

- 日 時 平成16年10月7日 13時～15時
場 所 奈良市 三井ガーデンホテル奈良
議 案 1) 開会の挨拶(両角理事)
2) 趣旨説明(山本部長)
3) アンケート結果報告(医療保険部・介護保険部)
4) パブリックコメント(日下理事)
5) ディスカッション(各士会の対応方法、連絡網整備)
6) お知らせ(医療保険部・介護保険部)
7) 閉会の辞(日下理事)

全国研修会中の会議でありながら多くの出席者があり、二つの専門部の合同会議への関心の高まりが感じられました。

職能局医療保険部山本部長より医療保険部のアンケート報告がなされました。各都道府県担当者に対して行なわれたもので、回答数は34件、大きく4項目に分けての説明でした。診療報酬算定解釈(疾患名、加算、起算日等)、同じく解釈(記録整備等)、施設基準(設備、面積等)、同じく施設基準(人員配置等)、監査事例、医療保険と介護保険の関係、についてその解釈が明らかになっているもの、地域や施設により解釈が異なっているもの、情報提供などに分類して報告されました。

介護保険についてもアンケート報告がなされました。内容は診療報酬とほぼ同様で、介護報酬算定解釈、施設基準、実地指導、等です。アンケートの詳細な内容は配布されました。今回は、全国の実況の把握行なうことと、今後の診療報酬、介護報酬改定等に機敏に対応できるように、ネットワークを作り、情報交換をさらに密にすることが目的のようです。

2年前の診療報酬改定時の対応の経験を含めて、東京都大阪府士会の情報収集の方法、取り扱い、広報等について紹介がなされました。特に東京士会では全国からの問い合わせがあったこと、リーフレットを作ったこと、ホームページで公開したこと、部員を設定したこと等が紹介されました。メーリングリストは完成しているので、もっとたくさんの方の情報を流してください(収集したい)とのことでした。また、配信もできるだけ行なうようです。

介護保険部からは、協会HPで質問、要望を受け付けています。介護保険制度の見直しとして、軽度要介護高齢者の介護予防があり、協会としては全国的な介護予防事業の展開に積極的に関わっていくことが報告されました。具体的には、平成16年度の国庫補助事業として、高齢者の起き上がり、立ち上がり能力～実態調査、介護保険関連理学療法研修会(H17/01/28-29)、介護予防への取り組み(H17年度事業)が紹介されました。

会議には会長が代理出席しましたが、両保険関係に関するお問い合わせ等は百石病院板井PTへお願いいたします。

東北ブロック協議会報告

青森県理学療法士会会長 伊藤 和夫

日 時 平成16年4月17日 14時～17時

場 所 岩手リハビリテーション学院

議 案 1) 報告事項 第21回学会(山形)報告並びに監査報告
第22回学会(秋田)準備報告
第23回学会(岩手)準備報告
学術局会議報告

2) 議事 1.平成15年度収支決算並びに会計監査報告
2.平成16年度予算
3.学術局提出議題
講師謝礼基準案 学会参加費 演題審査用紙
4.継続審議事項
5.その他

報 告 1) 平成15年11月8 9日開催、参加会員384名、学生190名、会員外6名合計580名。収入3,410,004円、支出3,381,830円、残28,174円。監査報告は1)諸会議の明細2)一部領収書の名義3)PCプロジェクターの購入の件4)予算と決算額の幅5)協賛金の額6)運営(修正、補正予算)について報告がされた。また、前回開催の申し送りについて要望が出された。

(略、開催要項は別紙)

テーマ、日程は前回報告済み。特別講演、シンポジウム、セミナー、口述15、ポスター30を見込む。参加規模300人、佐藤学会長、佐々木副学会長、事務局滝沢中央病東北理学療法学16号の発刊(4/19発送)、部数は2345部、見積もりは1,181,757円。平成15年11月の拡大編集会議報告にも基づいた検討報告がされた。主な内容は査読、投稿、座長推薦等である。

2) 1.一部修正があるが、承認。

2.予算では会員を250名増で見込む。予算規模は595万円、事業と管理比率は88.5:11.5%である。

3. 協会基準を適用し、協会会員は一律2万円、旅費、宿泊費を支払う。非会員を会員より減額する提案は、否決。演題審査用紙の見直しは了承。

4.疫学データ収集と大学、大学院移行推進については意見交換を行う。

5.その他；山形学会でPCプロジェクターを購入したことについて討議した。結論として、予算の立案、協賛金の取り扱い、補正予算の検討、理事会での討議(前回の宮城学会の教訓)、情報交換の時期と方法、プロジェクターはブロック内で使用すること、となった。

東北ブロック協議会第2回理事会報告

青森県理学療法士会会長 伊藤 和夫

日時 平成16年11月19日 15時30分～18時30分

場所 秋田市文化会館4階会議室

- 議案
- 1) 報告事項 第22回学会(秋田)
第23回学会(岩手)
第24回学会(青森)
学術局会議報告：学会部、機関紙編集部、教育研修部
 - 2) 議事 1.平成15年度予算、決算
2.平成16年度中間決算
3.協議会の会計処理の適正化、財産管理運用、各種規定係
4.その他(意見交換)介護予防事業他

報告1) 略

2005年11月12日、13日 盛岡市民文化ホール

「理学療法と行動変容」～行動変容プロセスの理解と臨床場面への応用(仮)～

特別講演;「行動変容の捉え方」 講師;筑波大 宗像恒次先生

シンポジウム;行動変容プロセスの理解と臨床場面への応用(仮) 講師;未

セミナ-;「中枢神経障害」 講師;札幌医大 吉尾雅春先生

「臨床動作分析」 講師;東北大リハ 佐藤房郎先生

公開講座;「姿勢、肩こり(仮)」 講師;昭和大藤が丘リハ 山口光圀先生

学会長;佐藤、副学会長;佐々木、準備長;中嶋、事務局;加藤、予算;370人

演題;口述15、ポスター30題予定、シンポジスト4名予定

学会長;伊藤 副;中村 準備委員長;梅村 事務局;東北メディカル学院

テ-マ;維持期のリハビリテーションに対する理学療法的提言(仮)

日時;2006年11月11日、12日

場所;八戸市公民館(300名)もしくは八戸市観光物産館1-トリ-催事場

内容;特別講演、シンポジウム、口述、ポスター発表、セミナー

機関紙編集部から、投稿規定枚数超過、編集業務の委託の件が出された。

ブロック主催研修会は、専門部会関係を入れて協会に要望していくこととした。

2)1.前回4月時点で一部修正があったため今回再度報告され、了承された。

監査は宮城学会時に再度実施、終了したことが報告された。

2.中間決算については了承された。

3.秋田士会から協議会の財務関係について一般会員に報告できる内容、方法を検討すべきとの提案がなされ、細則を含めて現状の問題点を出すこととした。

4.その他、宮城士会からの意見交換の提案は、次回継続課題とした。

以上

第39回日本理学療法士協会全国研修会印象記

10月7日（木）、8日（金）の2日間にわたり奈良において全国研修会が開催されました。今回の研修会のテーマは『生活支援に向けた理学療法 - 専門性を活かす視点』でした。

現在日本では、65歳以上の人口が全体の1/4を占めています。その現状から、『学生に限らず理学療法の対象が障害者・高齢者である以上、医療に従事するものは保健・福祉を、保健・福祉に従事するものは医療を知る必要がある』という話を聴き、これらのことは当たり前なことだが、「生活自立支援」を強く推進できる多くの人材が現代社会では求められているのだと強く実感しました。その中で、『老健での臨床実習において、高齢者の評価に実習生が戸惑う理由』についての話があり、その中には 診断名のない高齢者 体力の問題 複数の疾患を抱えている高齢者をどう評価したらよいか、などの問題があがっていました。特に体力については難しい問題であり、学内では教科書をもとに数値的に表す評価法

東北メディカル学院 細井 菊実
は学んでいるものの、実際その人がどれくらいの体力があれば将来の「生活」を維持していけるかを予測するには、今までの生活や現在の生活についてのさらに細かい評価や多くの医学的・生理学的な知識、他職種からの情報収集などが必要になってきます。この問題は医療機関においても当てはまることであり、これからの臨床実習においてはこの「予測する力」かつプログラムについての説明を相手（高齢者）が理解し納得できるような「表現する力」が求められると深く感じました。

この研修会では、臨床においてはもちろんのこと、学内においても「生活自立支援」をおこなっていくには、保健・医療・福祉において知っておくべきことが想像以上に多いことを実感し、患者（利用者）、リハチームにとって理学療法士は欠かせない存在だということを確認するものとなり有意義な研修会となりました。

スポーツ部会学習会印象記

去る、11月4日に青森労災病院でスポーツ理学療法部上十三八ブロック主催による「足関節捻挫の治療と後療法」の学習会が行われました。私の勤務するクリニックでは、スポーツなどにより足関節の捻挫をし、来院してくる方も多く理学療法をする機会も増えてきていました。捻挫の症状もさまざま、どのようにしたら痛みを取り除き早期にスポーツに復帰させられるか考えていました。そんな時、足関節の勉強会があることを聞き参加してみようと思いました。

講師として、労災病院の岡村先生が足関節の解剖から診断・治療まで具体的な症例を挙げながら

なかざわスポーツクリニック 大塚 聖子
説明してくださいました。足関節捻挫の回復への鍵は「保護と早期の運動」「体重負荷」「リハビリテーション」であると話していました。受傷直後は基本であるRICE処置を行い、痛みの我慢できる範囲内で体重負荷を行っていきROM訓練やチューブなどを使い筋力強化を行っていくことでした。また、バランス訓練ではつま先立ちのチェックや片脚ジャンプのチェックを行っていくことが大切であると話していました。

捻挫の理学療法を行っていくと、運動機能は良くなってきているがなかなか痛みが良くならない症例に出会うことがあり、何が問題なのだろうと

日ごろから疑問に思っていました。しかし、この勉強会に参加してその疑問に対し解決の糸口が少し見えました。それは、足根洞症候群の可能性も考えられるということでした。内がえし捻挫を契機として発症することが多く、踵骨と距骨の間にある足根洞を中心として足の外側に疼痛が出現するそうです。私の勉強不足なのかもしれないのですが、初めて聞く名前にそんなのもあったんだ！

と驚きました。

今回の勉強会では、今まで行ってきたことを再確認し自分の視野を広げるいい機会だったと思いました。これからも、このような勉強会があればどんどん参加していきたいと思います。みなさんもぜひ参加してみてください。新たな発見があるかもしれないですよ！？

平成16年度学術奨励賞選考への応募に関するお知らせ

学術奨励賞は、士会員、特に若手会員による活発な学術研究活動を推進することを目的に、平成元年度から設けられた表彰制度です。毎年、優れた学術研究活動を実践したと認められる士会員1～2名を表彰委員会が選考し、3月の士会学会の場で表彰を行います。受賞者には表彰状の他、記念の品と楯が贈呈されます。

受賞者の選考は、士会定例症例検討会での発表内容、学会発表内容（士会学会、東北学会、日本理学療法士学会、他の関連学会や研究会）、学術論文、継続的に取り組まれている学術研究活動の成果等をもとに、表彰委員会が行います。

表彰委員会では、上記の選考資料をできる限り広く入手するよう努めておりますが、委員の数も限られており、士会員による学術研究活動に関するすべての情報を収集することが困難な状況にあります。

そこで、委員会として公正な選考を行い、かつ、多くの士会員の学術研究活動の心意気に応えるために、士会員一人一人から今年度実施した、または継続中の学術研究活動について申告していただき、それらを選考資料に含めることにいたしました。

については、今年度の士会員各位の学術研究活動

表彰委員会委員長 石川 玲

に関するリストを、下記の要領で表彰委員会まで申告してください。多くの士会員が学術奨励賞選考に奮ってチャレンジされることを期待しております。

【応募要領】

今号ニュース巻末または士会ホームページからダウンロードした申告用紙を用いて（自作した同様書式用紙の使用可）、今年度の学術研究活動、または継続中の学術研究活動を表彰委員会までご報告下さい（郵送またはE-mail）。〆切は平成17年1月15日必着とします。なお、実績として認められるものには、主著・共著論文、症例検討会、学会・研究会での発表（共同演者でも可）の他、院内発表なども含みますので、発表または報告したものはすべてご記入下さい。

応募先（問い合わせ先）

〒036-8564 弘前市本町66-1

弘前大学医学部保健学科理学療法専攻内

石川 玲

TEL0172-39-5978 FAX 0172-39-5981

E-mail : a_ishi@cc.hirosaki-u.ac.jp

第1回津軽地域リハビリテーション研修会のご案内

日 時：平成16年12月18日（土） 13：30～16：00

会 場：弘前市総合学習センター（弘前市末広4丁目10-1）

参加申込：参加申込はFAXで12月3日まででしたが、研修会当日直接の参加でも構いません。

プログラム：13：00 受付開始

13：30 開会あいさつ

13：40 行政説明

青森県地域リハビリテーション支援体制整備推進事業について

青森県健康福祉政策課 総括主査 舘田菊子

14：00 特別講演

地域リハビリテーションと介護保険の動向

- 「ねんねんころりん」から「ぴんぴんころりん」へ - (仮題)

全国介護支援専門員連絡協議会 会長 木村隆次

16：00 閉会

問い合わせ：弘前市立病院リハビリテーション科 担当佐藤

T E L 0172 - 34 - 3211 (内線163) F A X 0172 - 37 - 6367

【財務部通信】

会費自動引き落とし者へ

平成16年度の自動引き落としが**5月27日(木)**に行われました。下記へ振り込みをお願いします。

小笠原 博治、白石 茂雄、柳 郁子、大塚 聖子、桜庭 麗香、菊池 宏充、山下 奈津子

会費自動引き落とし以外者へ

下記へ振り込みをお願いします（11月30日現在）

澤田 隆憲、栗林 輝生、柳谷 誠、奈良 剛、中野のぞみ

舘山 智格、小山田 香、樋口亜絹子、三浦 純子、盛田 寛明、一戸 尚美

岩井 和広、大久保千明、塩崎 美子、伊藤紗岐子、佐々木千賀子

李 相潤（12,000円のみ）

会費納入方法は下記の通りです。

士会費12,000円の振込先 振込み手数料210円

みちのく銀行 黒石支店 店 番 024 口座番号 0117013

名 義 名 青森県理学療法士会 代表者 佐藤 洋

協会費11,000円の振込先 振込み手数料120円

郵便振替で 口座番号 00130-3-78642

加入者名 社団法人 日本理学療法士協会

通信欄に

記入例 〔平成16年度会費 1名分 佐藤洋 8692〕 協会会員番号

と記入して下さい。払込人住所氏名は、施設名の住所氏名で結構です。

尚、領収証が必要な方は、下記へ御連絡下さい(昨年、連絡を下された施設には入金が確認できれば送付します)。また、どうしても6月15日まで納入できない人は、自動引き落としにして下さい(振込手数料無料、公共料金と同じく忘れなくて済む)。どうぞ御協力をお願いします。

不明な点は 黒石病院リハビリテーション科

佐藤 洋

TEL 0172-52-2121(217)

【ニュース編集部通信】

次回の原稿締切は、平成16年12月16日(木曜日)です。

原稿を依頼された方、もしくは掲載記事をお持ちの方は、次頁の各支部担当に

フロッピーディスク、FAX、E-mailのいずれかにて、送付して下さい。

原稿受付に関するお知らせ

ニュース編集部の東青・むつ下北支部担当者のメールアドレスが、下記のとおり変更となっております。連絡先をお確かめの上、お問い合わせまたは原稿の送付をお願い致します。ご不明な点などにつきましては、編集部長または、各支部担当者までお問い合わせください。

青森県士会ホームページアドレス

<http://www.aa.alpha-net.ne.jp/ptaomori/>

§ ニュース編集部支部担当者 §

東青・むつ下北：工藤 寛教(あおもり協立病院)

〒030-0847 青森市東大野2丁目1番地10号

TEL 017-762-5500 FAX017-729-3260

E-mail: celeste_urg1@mail.goo.ne.jp

(電話・FAXは病院、メールアドレスは工藤先生個人のものであります。ご注意ください。)

三八・上十三：川口 恵理(シルバー病院)

〒039-1161 八戸市河原木字八太郎山10-444 TEL 0178-28-4000 FAX 0178-20-4962

E-mail: ptsilver4000@yahoo.co.jp

(リハ科全体のアドレスのため、本文中に宛名が必要)

中弘南黒・西北五：藤田 俊文(黎明郷リハビリテーション病院)

〒038-0194 南津軽郡碓ヶ関村碓ヶ関字湯向川添30 TEL 0172-45-2231 FAX 0172-45-2373

E-mail: reimeipt@h7.dion.ne.jp

(リハ科全体のアドレスのため、本文中に宛名が必要)

事務局ニュース編集部長；梅村 孝博(東北メディカル学院)

〒039-1522 五戸町字苗代沢3-6 TEL 0178-61-0606 FAX 0178-61-0034

E-mail: pt.umemura@rinken.ac.jp

編集委員；伴 久美子（黒石病院）
工藤 寛教（あおもり協立病院）
藤田 俊文（黎明郷リハビリテーション病院）
川口 恵理（シルバー病院）
豊嶋 大輔（八戸城北病院）
佐々木幸重（十和田東病院）

外交局広報部(HP担当)；安田 友久（青森労災病院）

////////////////////////////////////
編集後記

先月、秋田市で東北理学療法士学会があり参加してきました。久しぶりに(10年以上前に行ったきり・・・)秋田市に行ったのですが、駅舎・駅周辺ががらっと変わり立派になっているのにとてもびっくりしました。岩手県の盛岡駅周辺(特に西側)もそうですが、やはり新幹線が開通すると変わるもんだなあと思いながら、秋田駅舎の中を歩いてきました。その時、ふと私の地元でもある八戸の駅のことを思い出しました。八戸駅は2年前の新幹線「はやて」開通にあわせて改築された駅舎です。外観は「ウミネコが翼を広げたデザイン」となっており、駅舎自体は大変立派になりました。しかし、駅周辺はいまだに閑散としていて、地元民にしてみると少し寂しい感じがします。青森県南の玄関口としてもっと発展してほしいと願っています。
(文責：梅村)

////////////////////////////////////

奥 付

編集；青森県理学療法士会
発行；PT 事務局・ときわ会病院リハビリテーション科内
〒038-1216
南津軽郡常盤村榊字亀田2-1
PHONE・FAX 0172-65-3698
E-mail；ptaomori@m16.alpha-net.ne.jp

学術奨励賞選考資料用業績リスト申告用紙

会員番号 0_0_2 -	氏名
所属施設	TEL

演題名・論文タイトル

発表学会・投稿雑誌等 筆頭者・共同研究者

演題名・論文タイトル

発表学会・投稿雑誌等 筆頭者・共同研究者

演題名・論文タイトル

発表学会・投稿雑誌等 筆頭者・共同研究者

演題名・論文タイトル

発表学会・投稿雑誌等 筆頭者・共同研究者

演題名・論文タイトル

発表学会・投稿雑誌等 筆頭者・共同研究者

演題名・論文タイトル

発表学会・投稿雑誌等 筆頭者・共同研究者

演題名・論文タイトル

発表学会・投稿雑誌等 筆頭者・共同研究者

演題名・論文タイトル

発表学会・投稿雑誌等 筆頭者・共同研究者

演題名・論文タイトル

発表学会・投稿雑誌等 筆頭者・共同研究者

筆頭者が共同研究者かいずれかに 印をつけて下さい。

発表学会などについては、回または日付をご記入下さい。

投稿雑誌、書籍などについては、巻・号・頁、出版年などもご記入下さい。

記載欄が不足の場合にはコピーしてご使用下さい。